



- ・自分たちの団体を取材してほしい
- ・こんな話題を取り上げてほしい
- ・ユニークな活動や地域のために頑張っている団体・人を知っている

「恩送り」は 優しさのバトンリレー



↑中鉢さんをゲストに迎えて、たがさば主催のきずくボランティア講座を8月3日に開催。子どもたちはお互いさまチケットを体験しました。

「恩送り(ペイ・フォワード)」という言葉を知っていますか？恩返しは恩をくれた人に直接お返しをしますが、恩送りは別のの人に恩を送る考え方です。うれしかった思いをつないでいく、思いやりのバトンのようなものです。

「恩送りを通して人の優しさに触れることで、自分も人の役に立ちたいという思いにつながります」と話すのは塩竈市在住の中鉢典子さん。東日本大震災をきっかけに立ち上がったNPO法人チームふくしまで、恩送りに基づいた「お互いさまの街ふくしま」の取り組みを広める活動をしています。その一つが「お互いさまチケット」。先払いすることで、必要としている人がサービスを受けることができる仕組みです。

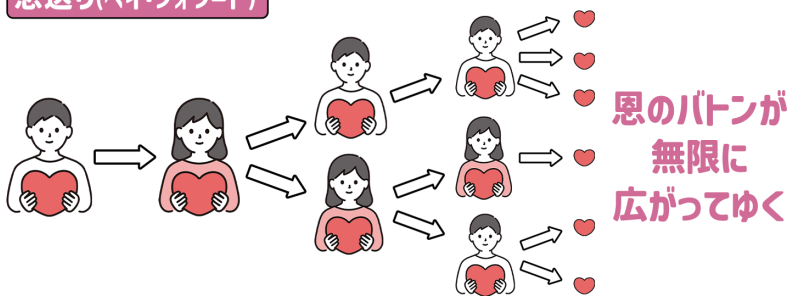
日々の生活の中で、誰もが支えられる側にも支える側にもなり得ます。だからこそ、一人ひとりの小さな思いやりで助け合える恩送りの仕組みが必要になります。「自分ができるところをやるのが、その行動の一步になります」と中鉢さん。ゴミを拾う、あいさつをするなど小さなことで構わないと話します。

人の役に立ち、喜んでもらえることで自分も幸せになる恩送り。お互いさまの気持ちがあふれる世の中にしたいですね。

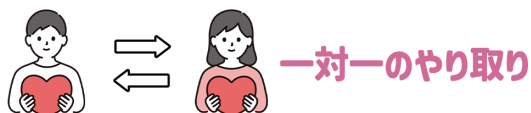
「恩送りの考え方や取り組みを紹介！」

恩送りについて詳しく知りたい方はこちら

恩送り(ペイ・フォワード)



恩返し(ペイ・バック)



「お互いさまの街ふくしま 発」
**“恩送り”が
世界を変える！**
仕事も人生もうまくいく究極の生き方



「お互いさまチケット」を拡げる
「チームふくしま」の“挑戦”を
福島県内のモスバーガーと共に
応援しています。

お互いさまの街ふくしま 発
“恩送り”が世界を変える！
仕事も人生もうまくいく
究極の生き方

著者：NPO法人チームふくしま
Noriko(中鉢典子)

発行：株式会社ごま書房新社



中鉢さんの
「恩送り」プログラム



NPO法人
チームふくしま HP



「やってみたい」から はじまる可能性



地域を盛り上げたい、まちを良くしたいという想いで活動している若い世代がいます。
実践できたものからこれから始める人を支えるものまで、さまざまな取り組みがあります。

「やってみたい」を実践

バイブス タガジョウ

VIBES TAGAJO

2025年8月2日(土)、「若者と地域をつなぎたい」という想いがつまった、高校生が企画・運営した地域活性化イベント・VIBES TAGAJOが多賀城駅前公園で開催されました。

「多賀城のまちを盛り上げるためのイベントがやりたい」。市内在住の高校生・遠藤理輝さんと堀江隆太さんが動き始めたのは半年前の2月。「イベントをする上で必要な経験も知識もなかった」という2人は、市民団体をはじめとする地域の大人たちのアドバイスや協力を受け、計画を少しずつ現実的なものに育てていきました。共感した同級生による実行委員は最終的に11人になりました。

「多賀城の人の温かさや優しさ、居心地の良さが好き」と話す遠藤さん。若者と地域の人が交わって楽しむことを目指すと同時に、若者が地域に目を向け、その魅力に気づき発信するきっかけにしたいと考えました。内容は、ダンスステージや古着を中心としたフリーマーケットなど、高校生らしい発想で決定。1,000人を超える来場があり、若者のバイブス＝魂の振動が多賀城駅前を揺らしました。

「実行委員のメンバーにとって、イベントをやり遂げたという自信につながるのでは」と話すのは協力した市民団体のメンバー。ボランティアで参加した高校生も「ここまで大きなイベントになるとは思わなかったので参加しがいがあった」と喜んでいました。

「たくさんの方に支えられて、今日を迎えることができて本当に良かった」と清々しい表情で話す遠藤さん。次の代に引き継ぎ、イベントは今後も継続していく予定です。



Instagram

「やってみたい」の伴走

ベース

ヨンカクBASE

高校時代に中高生まちづくりプロジェクトアイリスを立ち上げるなど、さまざまな地域活動に携わってきた鈴木亜里紗さんが2025年に始めた市民活動団体ヨンカクBASE。「学生が気軽に集まれる場所を多賀城につくりたい」「誰かの一步を後押しするための場にしたい」という想いが込められています。団体名には、地域・人・自分・☆(星)の4つを掛け合わせることで居場所になるという意味があり、「星」が表しているのは、自分だけの大切なもの。それを地域や人とつなげることで生まれるものを大事にしたい」と鈴木さんは話します。

現在は、たがさぼのフリースペースを会場に若者対象の居場所を運営。月1～2回のペースで学生たちがゲームや占いを楽しんでいるほか、「これがやりたい」「これならできそう」という想いを共有したり、実現に向けたアイデアを出し合ったりしています。今後は参加者の取り組みをサポートするためのセミナーやワークも実施する予定です。活動日や参加方法はInstagramをチェックしてください。



Instagram

「やってみたい」を応援

Tagajo Youth Challenge部

地域の活動や課題に目を向ける若者、自ら活動始める若者を増やすことを目的に活動しているTagajo Youth Challenge部。たがさぼが行う若者の活動支援の一環として2024年度にスタートし、学生(中学生～大学生)を中心とした若い世代に地域について考える場、学びの場、想いを整理する場になっています。興味のある方は、ぜひお問い合わせください。



第1回
報告ブログ



「tag(たっぐ)」には、多賀城(tagajo)」の頭文字3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



ホームページ



ブログ